

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社ウッドワン本社工場

(2) 事業所の所在地

広島県廿日市市木材港南1-1

(3) 業種

建具製造業

(4) 事業所位置図 別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、2018年を基準値とし2022年度から2026年までの5年間とする

3 計画の基本的な方向

1. 2021年4月に老朽化の為稼働を停止した1300KWhの木屑焚き自家発電設備に変えて太陽光発電設備の導入を
着工直前で断念したものの今後も継続して設備検討を行うものとした。
2. 2022年4月より、購入電力を関西電力の再エネECOプランに変更しており、今後とも継続的な温室効果ガス削減
に努める。
3. 新規に導入する生産設備には、環境に配慮した省エネタイプを選定する。
4. 従来からのISOのEMS推進組織により省エネルギー活動を継続するものとしている。
5. 全社「TPM」活動の中で各設備の設備総合効率の改善を行い、エネルギー原単位の削減につながる活動を
継続する。
6. 本社地区の老朽化した変圧器を高効率変圧器に更新し電力量の削減をはかる。
7. 老朽化したコンプレッサーをインバータ制御のコンプレッサーに更新(串戸1.2課/収納2課)

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	2018年度	令和（6）年度
二酸化炭素	4,637	2,856

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス （ HFC PFC SF ₆ NF ₃ ）		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (2018年度)	削減目標		目標年度 2026年度
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	4,637	8.1	376	4,261
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計	4,637	8.1	376	4,261
温室効果ガス みなし排出量		-		4,261
目標設定の考え方	2018年の排出量をBM値とし毎年1%の排出量の削減を目標とする。			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

生産金額(千万円)

単位：排出量(t-CO₂)、原単位量(kg等)、削減率(%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (2018年度)			原単位 削減目標 削減率 (d)	目標年度 (2026年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)		排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	4,637	2,085	2.22	12.6	4,261	2,202	1.94
非エネルギー起源CO ₂				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量	4,637	2,085	2.22	12.6	4,261	2,202	1.94
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	-	-	1.27	-52.8	-	-	1.94
目標設定の考え方	各部署で使用する電力に関しては全社目標を2018年度をBM値とし、毎年1%の削減としている。 新規生産ライン導入により2021年度比購入電力6.8%増、生産金額では全体で2021年度の10%増を見込む。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	電気使用量の削減 2021年度BM 5.55	2026年度 電気使用量 11,430Kwh 生産金額 2,202百万円 原単位 5.19	・エアコンプレッサーのロス削減 ・UV乾燥機の空転時出力調整 ・設備総合効率向上による生産性向上 ・新生産設備に省エネタイプを導入
2			
3			
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1	購入電力を関西電力の再エネECOプランに変更	本社地区の生産拠点全量
2		
3		

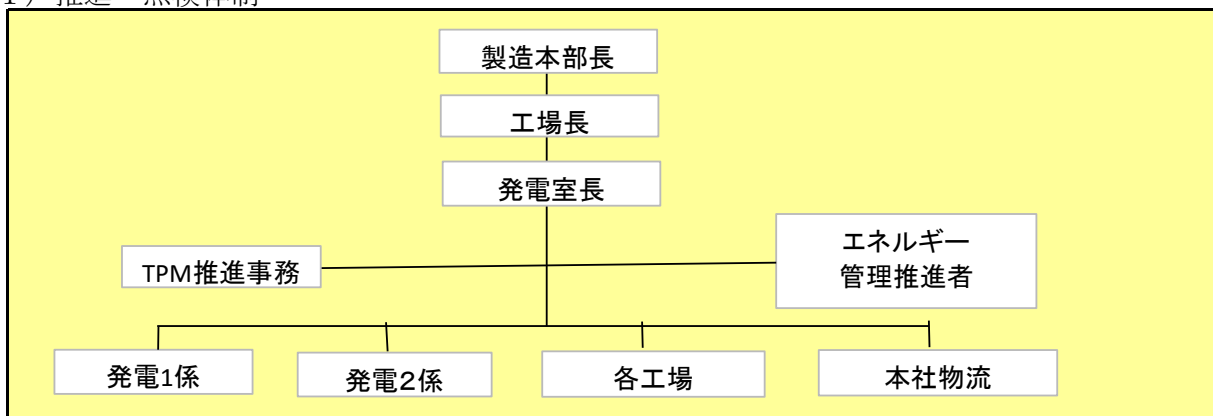
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

1. 従来からのISOのEMS推進組織により省エネルギー活動を継続する。
「全社EMS環境目的」の中にエネルギー原単位の削減目標を明記し、各EMSサイトに於いて四半期毎の達成状況のチェックを実施している。
2. 全社員の経営活動への参加の一環として実施されてきた「JAMP」活動の中で毎年1回各工場の省エネ活動の発表及び受賞が行なわれており、引き続き実施する。
3. 全社「TPM」活動のなかで各設備の設備総合効率の改善を行い、エネルギー原単位の削減につながる活動を行っている。設備総合効率を毎月算出して、改善進捗を確認している。

(3) 計画書等の公表

1. 省エネ法の定期報告書の中で中長期計画書として報告している。
2. 毎年環境レポートを当社ホームページに掲載。